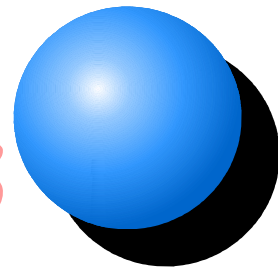




# ゆい ・まーる



★VOL 20 令和4年1月5日



## 絵本の楽しさをあすそ分け

### ■「うちのくるまはバン！！」

鎌田歩／作

荷物をたっぴり積めるバンタイプ自動車の魅力がたっぴり。



●バンを使って便利屋を営むお父さん・お母さんは、ペンキ塗りや庭木の剪定、引っ越しなど、頼まれた内容によって積み込む道具や荷物を変え、いろいろな仕事をします。子どもたちが手伝う犬の散歩という珍しい仕事も…。●最後の家族の楽しみにもバンのメリットが活かされ、大活躍！自動車と仕事との組み合わせが新鮮です。●3歳くらいから。

ラシとクリーム大福、トイレットペーパーとシャベル…どんどん取り組みが進んでいきますが、この作品には終わりのオチはありません。二宮由紀子さんの作り出す世界は、あおきひろえさんのとぼけた味わいのある絵と一体となってナンセンスぶりがヒートアップ。●途中、姿を消して不戦敗となる消しゴムが裏表紙でこっそり現れ、エヘへの苦笑い…笑えます。ただただおもしろいお話を生み出す二宮由紀子さんは、かけがえのない作家です。●4才くらいから。

### ■「れいぞうこのよこのおくすみっこのかくれんぼ」

うえだしげこ／作

冷蔵庫で隣同士のマヨネーズのマヨとケチャップのケチャは大のなかよし。



2人は味も色も違うけれど、料理をおいしくすることが幸せだと思っています。●ある日、子どもがポテトサラダにマヨをかけているときに、ふたがコロコロ転がって見えなくなってしまいます。マヨはふたがないと乾いてしまいます。ケチャは、マヨのためにナスのヘタやしいたけ、哺乳瓶のキャップなどをふたの代わりに持ってきますがしっくりしません。●台所や冷蔵庫のすみっこに隠れてしまう〈あるある〉を題材にしたマヨとケチャの友だち思いの

### ■「おうちおおすもう」

二宮由紀子／文あおきひろえ／絵

遊び心いっぱい作品。●家の中のいろいろなモノがまわしをつけて次々と相撲を取ります。行事は〈おおもりのごはんのすけ〉、



呼び出しはインターホン。最初の取り組みは、台所部屋の包丁と玄関部屋の傘。ちゃんと相撲部屋があって、4コマまんがのように取り組みと決まり手を描きます。歯ブ

お話は、子どもたちにも気持ちが届きます。前作「れいぞうこのおくのおく」もどうぞ。

●4才くらいから。

## ■「ポップポーン」

たまむらさちこ／作

**ポ**ップコーンの粒を題材にイメージをいっぱいにくらませた作品。●保育園のあおぞら組のおやつは、先生が目の前で作ってくれるポップコーン！お鍋の中でコーンがはじけ、ポップポーンとふくらんだポップコーンがたくさんできました。●子どもたちはポップコーンの形が何に見えるのか形遊びを始め、1個だけはぜなかつたコーンに想像力をいっぱい働かせてスケールの大きな遊びにつなげます。●ポップコーンは手づかみでまとめて食べますが、よく見ると一つひとつ微妙に形が違います。その細かな違いを子どもたちの遊びとくっつけてお話にしてしまう…子どもたちに受ける作品です。●3才くらいから。



テーマ。●2冊を読むと、同じように続く〈日常の日々〉が、実はとても大事なことなのだと実感できます。●5才くらいから読んであげるとパパ・ママの家族愛が子どもにも伝わります。

## ■「こんやはどんなゆめをみる？」

工藤ノリコ／作

**絵**を隅々まで見て楽しむ作品。

●5匹の子ブタがベッドに入り、「こんやはどんなゆめを

みる？」「そうだなあ…こういうのはどう？」とつぶやきながら夢の世界に…文の説明はなく、ページいっぱいに空想の世界が広がっています。これが順に続き、おしまいには、5匹揃って同じ夢の世界が待っています。●15年前の新装版。●夢のページには文がないので、読み手のお母さんと子どもが自由に語り、会話も楽しめます。●3才くらいから。



## ■「3人のパパと3つのはなたば」

クク・チスン／作

**日**々の暮らしの中に家族のささやかだけれど大切な幸せがある…そのことに気づかせてくれる作品。以前紹介した「3人のママと3つのおべんとう」のパパ編。●物語の最初のページに、3人のパパを紹介（顔・名前・職業・簡単な性格）し、それぞれの仕事を時間の経過とともに描き、ようやく仕事を終えた3人それぞれが花束を持ってどこかへ行きます。●「3人のママ」では、子どもたちの遠足のお弁当を作ることを通して3人のママの日常を映し出しましたが、ここでは誠実に仕事をしているパパと家族への愛が



## ■「しろくまのパンツ」

TUPERATUPERA / 作

**い**ろいろなタイプの仕掛け絵本を編み出している2人組のユニットが、タテ長の穴あきを楽しむ絵本を作りました。●しろくまが困っています。パンツがなくな

った、しかもどんなパンツをはいていたのかも忘れちゃった…ねずみが心配して一緒に探してくれます。右のページの穴あきがパンツになっていて、ページをめくるとあら残念！違う動物のパンツ。●形・模様・大きさ、いろいろなパンツと動物の組み合わせが楽しく、タテ長のページに描く動物たちのデザインといろいろな色との調和もセンス抜群。●タイトルがオチになっているところが笑え、絵本のカバーもおしゃれです。●3才くらいから。





# 本との出会いを

## ボーイズ&ガールズに

### ■「とりあえず とりのはなし」

おくはらゆめ／作

ほのぼの、そしてかわいらしさが詰まった3つの連続するお話。●子どものススメのはなこが、人間のはなちゃんのお母さん



さんがほっぺたを桃色にお化粧しているのを見て、マネしたくなります。お母さんが部屋から出ていったすきに開いていた窓からそっと入り、羽さきでほおべにをほっぺたに塗り、黒い模様を桃色にします…鏡にはとっても可愛いスズメ。お絵かきをしていたはなちゃんがそれを見ました。●〈知りたがり屋でしたがり屋〉のススメのはなことはなちゃんの愛らしくほほえましいやりとりがとっても楽しい。●お話は、はなちゃんが描いていたペガサスとユニコーンが合体した〈ペガコーン〉の絵が風で飛んでいった先で続きが待っています。メンフクロウ、ヤマシギそれぞれが、この絵を見て心なごみつつもちょっと不思議なお話を語っていきます。●おくはらゆめさんの絵はふくよかで、見ていて心地よく、何とも言えないゆるさがただよ、絵と文の両方を味わうと幸せな気持ちになります。絵本や読み物がたくさんあるので、ぜひトライを！●これは小学校低学年に、

### ■「願いがかなう自動販売機

#### ジャンケン必勝てぶくろ」

山口タオシ／作 たかいよしかず／絵

商店街に現れたヘンテコな自動販売機が巻き起こす〈Happy-End、そんなのあり？、気持ちが良くなる〉お話が3つ収められています。●1話目はタイト

ル作。クルミはジャンケンがとっても弱い女の子。自動販売機で必ず勝てる手袋を手に入れ、劇の発表会で白雪姫の主演をなろうとしますが…クルミは自分のしたかったことと思ってもみなかった喜びを手に入れます。●2



話目はプロレス好きの男の子がプロレスかぶしき会社の社長になり、商店街を盛り上げたり、自分も社長のクビをかけてプロレスで戦ったり…。●3話目は飼い猫の気持ちを知りたくてアニマルキャップを手に入れた女の子がピアノのじょうずなおばあさんと知り合い、おばあさんの子どもの頃の思い出につきそい…。●意外性のある物語で愉快、そしてちょっとぴりセンチメンタル。自動販売機のヘンテコさも楽しく、オススメです。短いお話で読みやすさも魅力小学校中学年に。

### ■「ひまりのすてき時間割」

井嶋敦子／作 丸山ゆい／絵

何かに集中すると周りが見えなくなり、集中力の配分が苦手な注意欠如・多動症の少女・ひまりが、自分の一日をすばらしいものにするために〈す



てき時間割〉を考え、それをやり続ける物語。●どうすればミスをなくし、ステキな日になるのか自分でできるルールを作り、朝起きてから寝るまでの〈確認とすること〉を時間割形式にしたのが〈すてき時間割〉。時間割を少しずつ書いては親友の真由に読んでもらい、感想を聞きながら自信を深め

ていきます。●通称ADHDと呼ばれる子どもたちの特徴や苦勞などを知り、ひまりが信頼を寄せる小児科医のアドバイスを織り交ぜ、ひまりが日常生活を快適に過ごしていくための工夫を理解することができる物語です。●真由が口にする〈ダメな自分〉に、ひまりが〈自分を好きになる〉ことを助言する場面もとても印象的。●著者は小児科医。物語を楽しみながらいろいろな子どもたちを理解するテキストにもなっています。読んだ子どもたちは、日々の過ごし方をチェックすることに活用できるかも…。●小学校中学年からおとなまで。●応用編として、3人の子どもたちが自分たちの夢を実現させるために大谷翔平選手の目標達成表や論理展開シートを作って行動を始める「夢をかなえる未来ノート」（本田有明／作）の文中の言葉〈始める勇氣、続ける根気、やり抜く本気〉も参考に。●シリーズ「願いがかなうふしぎな日記」「望みがかなう魔法の日記」もどうぞ。

## ■「風の神 送れよ」

熊谷千世子／作

長野県南部に400年も続いている、子どもたちだけで地区内の疫病神を集めて、地区外へ送り出す「コト八日行事」を題材にした物語。●主人公の優斗は小学6年生。寝ぼすけで急に体調を崩すので、毎年2月の念仏を唱えながら家々の疫病神を集めるコト八日は参加できても、翌朝村の外に送り出す〈コトの神送り〉は、一度も体験なし。今年の中1の凌がリーダーの頭取で、優斗はその補佐。地区の小3から中1の凌まで9人の子どもたちだけで大小の旗を作り、念仏や歌の練習をし、2日間にわたって太鼓を背負い、旗を持ち、念仏を唱えて地区内のすべての家をまわり、〈コトの神〉を集め、地区の外れでコトの神を捨てる神送りをします。●物語は、



コロナ禍の今が舞台。おとなたちの見守りや感染対策、家族が経済的打撃を受けてやってきた転校生、伝統を続ける意味、リーダーの役割…子どもたち同士の結びつきとそれぞれの個性がしっかり描かれ、前を向く作品。小学校高学年から中学生に。

## ■「博物館の少女 怪異研究所事始め」

富安陽子／作

読みごたえのある新しいシリーズが誕生しました。●時代は明治15（1882）年。大阪の道具屋の娘・イカルは、13歳の時に父親と母親を相



次いで失い、東京の親戚に引き取られます。●イカルは、預けられた先の孫・トヨと知り合い、東京見物としてできたばかりの上野の博物館へ…物語はここから始まります。イカルは古い道具の目利きのセンスがピカイチ、博物館で幼い頃に実家を訪ねてきた館長を通して、上野寛永寺が所蔵していた物品の怪異現象を研究しているトノサマの助手を務めることになります。物語のカギは、倉から盗まれた〈黒手匣（くろてはこ）〉の謎を突き止めること。●日本で初めての博物館のコレクションにひそむ怪異の謎、隠れキリシタンと不老不死の伝説が伝わる島の存在、黒手匣を欲しがるのは誰か・なぜなのか…古代からのふしぎなできごとを題材にたくさんの物語を世に送り出している作者は、多様さと個性にあふれ、いろいろな能力を持った人たちを登場させ、たくみな構成で読者を物語の世界に引き込みます。●作者の巧みなところは、イカルが物語のあちこちで断片的に見聞きしたことがどれも謎を解き明かす手がかりになっていること…トノサマの強烈な個性、才能あふれる絵描きの卵・トヨとの友情も読みどころ！●中学生からおとなまで。